

京丹後市大宮町

ヒアリング対象：東田一馬・真希さん 家族3人

丹後にもこんなに素敵な人がいっぱい!



植田友香理さん

与謝郡与謝野町在住
フリースペース「スタジオ き」主催



2012年8月に終了した常吉村営百貨店の後を受け、11月1日より装いも新たに『つねよし百貨店』がスタートしました。

その運営を受け継いだのが、チャレンジつねよし百貨店実行委員会。その代表は、東田さんの奥様で真希さん。

「つねよし百貨店がなくなったら困る人がいるんです。」

乳母車を押してやってくるおばあちゃんの、買い物場所がなくなる。井戸端会議が始まる憩いの場所つねよし百貨店。

真希さんは、一馬さんがはじめようとされる事をお手伝いしていこうとされています。3歳になるお子様もつねよし百貨店のスタッフとしてです。

東田さんが始められたことで、常吉の住民たちや、この取り組みを応援するいろんな方たちが協力し関わって、いろんな新しい取り組みが進められています。

○常吉村営百貨店について

京都府京丹後市大宮町常吉（つねよし）地区で、地域住民が出資し、住民が自主運営してきた集落で唯一の商店。

なんでもあるから百貨店をコンセプトに、暮らしになくってはならない食品や日用品を扱い、地域の暮らしを支えてきた地域のシンボリック的存在。

行政に頼らず、買い物難民対策を住民自らが取り組んできた先駆的存在として、その活動は広く評価され、2000年に自治大臣表彰、農林水産大臣表彰、日本農林漁業振興会会長表彰、2001年には農業会議会会長表彰を受賞するなどしています。全国からの視察も絶えず、新聞、テレビなど各種メディアの取材も数多く受けています。

○常吉村営百貨店設立の経緯

丹後大宮農協は1996年の春に合併してJA京都丹後になり、合理化の一環として常吉支所の廃止が決まりました。農協の支所は生活の基盤であり、集落内の唯一の商店でした。

買物弱者の生活が立ち行かなくなる不安から、支所廃止反対の交渉をJAと続けましたが、話がなかなかまとまらず、「ピンチをチャンスと逆手にとらえて、自分たちで作ろう」と発想を転換し、村づくり委員会のメンバーが中心となって、百貨店設立に動きました。

1997年12月に農業生産法人・有限会社「常吉村営百貨店」が設立。何でもあるから、何でもするからという理由で百貨店となりました。町村合併前までは常吉村が存在しており、百貨店の誕生によって懐かしい村名がよみがえることとなったのです。

○常吉村営百貨店設立の理念

村づくり委員会が中心に立ち上げられたことがあり、百貨店は村づくりと密接な関係にあります。設立当初の目的としてつぎのようなことがあります。

- ・農業と福祉と暮らしを柱にし、地域活性化のための拠点にする。
- ・高齢者、子どもが安心して暮らしていけるためのお店づくり。
- ・子どもたちには、ふるさとを誇りに思い「(大きくなっても) やっぱり常吉に住んでいたい」と思ってもらえるような地域づくり

平成8年に地域の小学生に常吉地区がどのような町であってほしいかという夢を絵に描いてもらったものがあります。その中に「田舎ランド」計画というものがあり、そこには「田舎ショップ、お店が欲しい」と書いてありました。常吉にはお菓子を買うに行くお店もなく、友達を呼ぶにも引け目を感じさせることがありました。そうではなく、友達に常吉を自慢したくなるように、子どもたちが描いた計画をひとつずつ実行しようとしたのです。

「つくる楽しみ、持って行く楽しみ、売れる楽しみ、お金がもらえる楽しみ、そしてお金を使う楽しみ」という5つの楽しみを住民に提供しようとしたのが、常吉村営百貨店の原点でした。

チャレンジつねよし百貨店実行委員会からのメッセージ

平成24年8月19日をもって常吉村営百貨店の営業を終了することが発表されました。

常吉村営百貨店は、平成9年の開店以来約15年間にわたり、ソーシャル・ビジネスの先駆者として、地域の暮らしを支え、地域農業を応援し、コミュニティ活動の発信に寄与してきました。

近年の商業形態の変化等で売上も厳しく経営も大変な状態の中、なんとか営業を続けてきましたが、代表の体調問題から経営の継続が困難となり、苦渋の決断として今回の結論に至りました。

環境が変化する中、村営百貨店はその役割を終えたと考える方も多いと思います。しかし、本当に地域商店の時代は終わったのでしょうか？

大型店、チェーンストアの進出で生活はより便利になってきました。

一方で、店頭には全国どこでも同じような商品が並び、安くて、手軽で、日持ちのするものが主流となっています。それは消費者が求めた結果であり、我々の選択です。

この流れを是とすれば、地域商店はいずれ淘汰され、全国どこへ行っても便利ではあっても、同じような店だけが残る時代が来るかもしれません。

それは果たして子供たちの未来にとって正しい選択といえるのでしょうか。

我々には子供たちの未来に対し、豊かな食、暮らし、農業、伝統を残す責務があるはずで

常吉村営百貨店は、地域に暮らす人々にとって、日々の生活を支える買い物の場であるだけでなく、老若男女が集い交流できる場であり、地域のみんなが安心して暮らせる見守りの拠点であり、都市部に出て行った子どもたちが戻るふるさとの場であり、地域に暮らす人の誇りとなる場所でありました。

常吉村営百貨店の終了は、地域にとって単なる買い物の場所を失うというだけでなく、安心して暮らしていくための拠点、そして未来に伝えるふるさとの誇りの喪失につながる大きな痛手になるものと考えます。

以上より、今一度、常吉村営百貨店の理念を受け継いで『つねよし百貨店』として生まれ変わり、新たな地域の拠点としての機能を存続させたいというのが我々の願いであり、挑戦です。